

史料群番号 37

史料群名	おおつか 大塚村文書		旧所蔵者	(宇佐美家)
探訪時住所	(埼玉県入間郡大塚村)			
現在の住所	埼玉県坂戸市			
探訪年月	不明			
史料の年代	延宝6(1678)年～明治18(1886)年	史料の総点数	59点	
年代の内訳	近世 14点/近代 9点/不明 36点	筆写稿本	なし	
既刊行目録	なし			

収蔵にいたる経緯

探訪記録は一切なく、詳細は不明である。「漁業制度資料調査保存事業」において、海沿いではない埼玉県の調査は、文献調査以外あまり行われなかった。内容をみると、近世の武蔵国入間郡大塚村の村方文書と考えられ、「宇佐美」の名も度々登場する。これは近世期に同村の名主を勤めた宇佐美家をさすと考えられ、現在、国文学研究資料館史料館(人間文化研究機構)に収蔵されている「武蔵国入間郡大塚村宇佐美家文書」との関連を考慮する必要がある。史料館所蔵の「宇佐美家文書」は元々澁澤敬三の旧蔵書「祭魚洞文庫」に含まれていたもので、戦後「祭魚洞文庫」は、文部省史料館(現在の国文学研究資料館史料館)と旧水産資料館(現中央水産研究所)に分割して移管された。元々一体だった本史料群が、祭魚洞文庫の移動にともない分割された可能性もある。

史料群の概要

入間郡大塚村は、近世から明治12年まで存続し、その後北大塚村となり、入西村、坂戸町を経て、昭和51年からは現在の坂戸市になっている。近世の大塚村は、旗本本郷氏の知行地であったが、幕末には幕府領と旗本2氏の相給村であった。

全体に近世期の史料が多く、年代不明の文書もほぼ近世文書によって占められている。大塚村の村政に関するものが多いが、「検地帳」や「年貢割付状」「皆済目録」あるいは「明細帳」など村の全体が見通せるような史料は少なく、周辺村落との訴訟に関するもの、地頭所からの通達、金銭のやり取りなどが断片的に残されている。

